

野枝、^{のえ}生きてます。

風よあらしよ

吉高由里子 永山瑛太 松下奈緒

美波 玉置玲央 山田真歩 朝加真由美 山下容莉枝
渡辺哲 栗田桃子 高畑こと美 金井勇太 芹澤興人 前原滉 池津祥子
音尾琢真 石橋蓮司 稻垣吾郎

原作 村山由佳『風よあらしよ』(集英社文庫刊)
演出 柳川強 脚本 矢島弘二 音楽 梶浦由記 制作統括 岡本幸江
製作 読売大塚 映像提供 NHK 2023年12月7日 DCP 日本
©風よあらしよ2024 ©村山由佳/集英社

劇場版

100年前、自由を求め闘った一人の女性の生涯

www.kazearashi.jp

15歳以上

太陽より高く
言葉を超えて
自由に。



関東大震災後の混乱のさなか、
ひとりの女性が憲兵に虐殺された。
女性解放運動家の伊藤野枝。

平塚らいてうの「元始、女性は太陽であった」という言葉に感銘を受け、バイタリテイ溢れる情熱で「青鞥社」に参加すると、ジェンダー格差や貧困などの社会矛盾に異議を申し立てていく。伊藤野枝を演じたのは吉高由里子。平塚らいてうを松下奈緒、野枝の第一の夫、ダダイスト・辻潤を稲垣吾郎が、また後のパートナーとなる無政府主義者・大杉栄を永山瑛太が演じる。

吉川英治文学賞を受賞した村山由佳の評伝小説『風よあらしよ』を原作に、向田邦子賞受賞の矢島弘一が脚本を、音楽は梶浦由記が担当、劇場版の為にエンディングテーマを新たに作曲した。本作の演出を務めた柳川強は「赤毛のアン」の翻訳者・村岡花子の人生を描いたNHK連続テレビ小説「花子とアン」のディレクターも務めており、本ドラマでも主演を演じきった吉高由里子とは9年ぶりのタッグを組んだ。ひとりの女性の短くも激しい生涯。

100年経ったいま。なにがかわりなにが残されているのか――。

物語

「女は、家あっては父に従い、嫁しては夫に従い、夫が死んだあとには子に従う」事が正しく美しいとされた大正時代――。

男尊女卑の風潮が色濃い世の中に反旗を翻し、喝采した女性たちは社会に異を唱え始めた。

福岡の片田舎で育った伊藤野枝（吉高由里子）は、貧しい家を支えるための結婚を蹴り上京。平塚らいてう（松下奈緒）の言葉に感銘を受け手紙を送ったところ、青鞥社に入ること。青鞥社は当初、詩歌を中心の女流文学集団であったが、やがて伊藤野枝が中心になり婦人解放を唱える戦う集団となっていく。野枝の文才を見出した第一の夫、辻潤（稲垣吾郎）との別れ、生涯のパートナーとなる無政府主義の大杉栄（永山瑛太）との出会い、波乱万丈の人生をさらに開花させようとした矢先に関東大震災が起り、理不尽な暴力が彼女を襲うこととなる――。



www.kazearashi.jp

✕ @kazeyoarashi



劇場で上質な映画を観よう

2024年 3月30日 土 14:00開映 (13:30開場)

チケット：一般¥1,000/シニア(65歳以上)¥800/ペア(2人)¥1,600

全席指定・税込

会場：松本市波田文化センター ACTHALL

プレイガイド・お問い合わせ：松本市波田文化センター
(TEL:0263-92-7501 FAX:0263-92-7505 9:00～17:00 月曜休館)

主催：一般財団法人 松本市芸術文化振興財団
企画・協力：NPO 法人松本 CINEMA セレクト
後援：松本市 松本市教育委員会